

# 共生

奈良県生協連

2014年1月

NO.91

## 万葉のいぶきを求めて—(56)



雪にうずもれる大極殿

あらた  
新しき 年の始の 初春の 今日降る雪の いや重け吉事  
おほ とも の やか もち  
大 伴 家 持

天平宝字3(759)年正月1日、因幡国<sup>いなばのくに</sup>国庁の庭には雪がしんしんと降り積もっていました。この年は元日に立春が重なった年でもありました。因幡守であった家持は、国庁に国や郡の役人を集め宴を開いていました。この宴の折りに家持はこの歌を詠んだのです。

「新たな年の初めの、初春の、今日降る雪のように、ますますよい事が重なれよ」

この歌はその年を祝福し、希望を託す歌でもありました。しかし万葉集の一番最後はこの歌で終わっています。万葉集の掉尾を飾る一首となったのです。この歌を最後に家持の歌は姿を消します。歌を詠む事を止めたのではなく、最後まで読み続けたに違いありません。しかし家持をめぐる情勢は厳しく、橘奈良麻呂の変で同族の大半を失い、自身も最後は藤原種継暗殺に関わる疑いが持たれるという状況が反映し、収録されなかったのでしょうか。

復元された大極殿に家持の願いを込めた雪が降り積もっていました。いや重け吉事！



## 新年のごあいさつ

### 今年も組合員のみなさんとの 「育ちあい」を大切に

奈良県生活協同組合連合会 会長 瀧川 潔



奈良県生協連につどう会員生協のみなさん、組合員のみなさん、あけましておめでとうございます。今年も激動の年のあけです。協同組合の主体である組合員のみなさんの持てる力をしっかりと生かしていけるよう、会員生協のますますの奮闘と活躍、組合員のみなさんのご協力を、新しい年の初めにあたり心より希望いたします。

昨年は、「ポスト I Y C」という国際協同組合年の引き続く潮の流れの中で、生協大会はじめ奈良県生協連へのご結集、ご協力をいただき誠にありがとうございました。会員各生協においても、流通競合の中での厳しい経営の推進とともに、組合員とともに地域に根を張っていく活動が、J A、森林組合など協同組合の仲間のみなさんとともに、行政とも連携しつつ進められました。東日本大震災や紀伊半島大水害の被災支援活動の継続、ならコープを中心とする「吉野共生プロジェクト」の進展、地域の生産者との連携や組合員との交流、食の安全やくらしの助け合いをめぐる地道な活動の広がり、新生医療福祉生協の活動開始と支援等々です。

一方、政府はTPPを推進し、消費税の導入を決定し、原発ゼロからの撤退、秘密保護法の強行採決など、国民の多くの声を無視した政策を押し進めており、今年も継続する意向です。くらしを守る生協としてはこの方向を変えさせる世論を、くらしの中から構築していく必要があります。

政治経済が大企業寄りの政策で進められる中、高齢者を含むくらしの悪化、流通競合や農

林業の荒廃などがいっそう進む様相ですが、これらを打開するには、役職員の奮闘はもちろんのこと、組合員のみなさんの力を借りる以外に方法はありません。

今から30年以上も前になりますが、1980年のICA大会に向けて準備されたレイドロ博士の報告「西暦2千年における協同組合」では、協同組合の歴史的発展の危機は三段階あり、第1段階は「信頼の危機」、第2は「経営の危機」、そして第3は「思想の危機」であり、「教育の軽視」が指摘されています。その後相次いで西欧の大規模生協が経営不振に陥り崩壊していったことは肝に銘じなければなりません。日本においても生協の経営が比較的大きくなってきた昨今では、経営の危機とともに「思想の危機」に再度しっかりと目を向け、役職員と組合員の参加による「教育」をさらに重視しなくてはならないでしょう。

大企業を含め「顧客」の重視が浸透しつつある昨今ですが、「単なる顧客」を重視するのではなく、協同組合こそが「組合員」の目線を大切にしつつ、「協同する社会的な人間」として重視し、参加と「教育・育ちあい」の方向に生かしていくことが必要です。

今年も、各会員と組合員のみなさんが、私たち自らのくらしを良くしていくために、生協を有効に活用して協同の精神を広げ、日本そして世界の期待である「人間中心の社会」の実現に向けて、しっかりとした歩みを続けていけるよう、ご一緒にがんばってまいりましょう。



# 平成二十六年新年ごあいさつ

奈良県知事 荒井 正吾



奈良県生活協同組合連合会の組合員並びに関係者の皆さま、明けましておめでとうございます。

平成26年の年頭にあたり、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、奈良の伝統文化が培ってきた叡智と活力である「やまとぢから」を県勢発展の原動力として活用し、本県の抱える課題の解決に向け、全力で取り組んでまいりましたが、皆さまのご協力、ご支援のおかげで、企業誘致、地域医療、消防広域化などの分野で成果があらわれてまいりました。

本年も「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」ことを県政の目指すべき目標として以下の施策を推進するとともに、その実現のため精一杯取り組んでまいりますので、引き続きお力添えのほどよろしく願いいたします。

## くらしやすい奈良の創造

県民の皆さまの健康長寿を願い、昨年策定した「なら健康長寿基本計画」に基づき、高齢になっても健康で自立した生活が送れるよう環境整備に努め、健康寿命を男女とも日本一にすることを目指します。

医療の充実については、本年4月に県立奈良病院、県立三室病院、奈良県総合リハビリテーションセンターの三病院を地方独立行政法人（名称奈良県立病院機構）に移行し、自立かつ効率的な運営を図ります。また、県立医科大学附属病院の充実整備や、平成27年4月スタートに向けた南和地域での新救急病院の整備など、県民の皆さまに安心していただける地域医療体制づくりを進めます。

## 紀伊半島大水害からの復旧・復興と県南部・東部地域の振興

昨年11月に、紀伊半島大水害からの復興及び

南部地域の魅力発信のために開催いたしました「なんゆう祭」におきまして、奈良県生活協同組合連合会及び各生活協同組合の皆さまに、多大なご協力、ご支援をいただきましたことを心からお礼申し上げます。

紀伊半島大水害からの復旧については、皆さまのお力添えもあり、概ね順調に進んでいますが、今なお仮設住宅などに住まれる方々の一日も早い帰宅が実現するよう、最優先で取り組みを進める所存です。また、被災地域の復興を目指し、「紀伊半島アンカールート」をはじめとした災害に強いインフラづくりとともに、県産材の販路開拓や新製品開発など、南部・東部地域の産業活性化にも、引き続き取り組んでまいります。

本年秋には、大淀町と川上村を会場として「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」を開催します。山と川の豊かな恵み、魅力ある歴史的資源等が豊富に存在する南部地域に、県内はもとより県外からもたくさんの方々にお越しいただきたいと思っています。

これらの課題を含め、県政の諸課題についても、今後も知恵と工夫を凝らし、着実・丁寧に進めていくことが大切であると考えています。一つ一つの実績を積み重ねれば、奈良はもっと良くなっていくと思います。

これからも、奈良を良くしたいという願いを強く持ちながら、県民の皆さまのご意見やご提案に十分に耳を傾け、力を合わせて奈良のより良き未来を築いていきたいと考えています。皆さまの一層のお力添えを心からお願い申し上げます。

最後に、奈良県生活協同組合連合会並びに各生活協同組合のますますのご発展を祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。

## 奈良県生活協同組合連合会が 消費生活協同組合法制定65周年記念 厚生労働大臣表彰を受賞しました



この表彰は、消費生活協同組合法制定を記念し、法の理念にのっとり健全な事業運営を行い、他の模範と認められる消費生活協同組合及び消費生活協同組合連合会、組合役員に対し、その功績をたたえるとともに、併せて組合の健全な発展に寄与することを目的として、厚生労働大臣から表彰されるものです。

今年の厚生労働大臣表彰では、組合27、個人25人が表彰され、奈良県からは、奈良県生活協同組合連合会が表彰されました。10月24日に厚生労働省で行われた表彰式には、瀧川潔奈良県生協連会長が出席しました。

今回の受賞は、会員生協の組合員・役職員の皆様、行政や諸団体の皆様の日頃のご支援ご協力の賜物と存じます。心より感謝し、お礼を申し上げます。



### ピースアクションinなら 講演会のご案内

## さいごのトマト～ ヒロシマを私自身の『ことばで』～

原爆投下から翌日まで、竹本さんの体験をお話しいただきます。

\* 日 時：2014年3月8日(土) 午後1時～3時

\* 会 場：奈良県中小企業会館4階大会議室

\* 講 師：竹本成徳氏(「さいごのトマト」著者)

1931年広島県生まれ。57年神戸生協入協、89年灘神戸生協組合長理事、その後コープこうべ理事長、日本生協連会長、コープともしびボランティア振興財団理事長などを歴任。現在は兵庫県ユニセフ協会会長を務める。兵庫県功労者表彰、厚生労働大臣表彰、勲2等瑞宝章、神戸市福祉功労賞などを受ける。

ご自分の体験を子どもにも読みやすいように書かれています



\* 主 催：ピースアクションをすすめる会

奈良県生活協同組合連合会(ならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協、奈良女子大生協、奈良教育大生協、奈良県立大生協、奈良高専生協、大阪樟蔭女子大生協、奈良県労働者共済生協、奈良県医療福祉生協)、ならコープ平和の会、ならコープwithユニセフの会

## 2013年度 第2回 生協・行政協議会を開催しました

2013年11月14日(木) ならまちセンター3階会議室

11月14日、本年度第2回目の生協・行政協議会に奈良県消費・生活安全課から4名のご出席があり、奈良県生協連の理事・監事と意見交換を行いました。

### ■「消費税転嫁対策特別措置法」についての説明

奈良県より「消費税転嫁対策特別措置法」についての説明がありました。事業者が円滑で適正な消費税転嫁が図れるよう同法は平成25年10月1日から平成29年3月まで適用されます。取引先への減額や買ったときなどの禁止、消費税分を値引きするなどの表示の禁止、税抜価格表示の明瞭化などが盛り込まれています。



### ■要望書への回答

10月に奈良県生協連が提出した2014年度に向けての要望書の内容について意見交換しました。奈良県からはそれぞれの項目について丁寧な回答をいただきました。また食品偽装表示の問題が県内でも起こっていることについて、事業者による法令順守の点検が必要との呼びかけがありました。食品安全行政や健康づくり、消費者課題等多岐にわたる県政の取り組みに今後も期待をするとともに、奈良県生協連からも、県民の安心な暮らしづくりのために役立つ連携協力関係の維持をお願いしました。

## 奈良県への要望書(2014年度に向けて)のポイント

### 1、消費者の安心な暮らしをまもるために

#### (1) 食品の安全について

①検査体制の充実と体制確保 ②「奈良県 HACCP 研究会」への支援と将来における県認証の検討 ③安心な食生活と県内農業を守る取り組みとリスクコミュニケーションの推進

#### (2) 医療・福祉・子育てに関する施策について

①「なら健康長寿基本計画」の主旨に沿った施策推進、住民の暮らしやすさを総合的にサポート ②生協における健康づくりの諸活動への支援と連携 ③国民健康保険制度の県への移管にかかわる対応策

#### (3) 再生可能エネルギーの普及について

奈良県エネルギービジョン推進における民間の力の活用

### 2、消費者行政充実強化の取り組みについて

#### (1) 消費者行政のさらなる充実

(2) 消費者教育推進協議会の設置と担い手となる団体や関係機関との連携

(3) 集団的消費者被害回復に係る訴訟制度成立後の広報

(4) 「なら消費者ねっと」への支援と連携

### 3、防災と災害復興支援について

(1) 災害発生時の県災害対策本部への情報受発信方法の検討

(2) 協定締結団体との緊急物資調達訓練の実施

(3) 会員生協BCP対策会議への継続的な協力と連携

(4) 「奈良県防災プラットフォーム連絡会」での連携強化

(5) 東日本大震災県内避難者への継続的支援

# 南部地域産業復興推進大会

# なんゆう祭

〈2013年11月23日・24日 開催〉

川上村の大滝ダムサイトおよびやまぶきホールにて開催。奈良県「南」部地域は「悠」大な山地と森林が広がり、古より豊富な水が「湧」き、私たちに大きな恵みを与えてくれます。「なんゆう祭」は先人達が伝えてくれた自然の技術、食物など南部の「優」れたものをたくさん集め多くの人をこの地に「誘」い地域や人、文化を「結」ぶお祭り。紀伊半島大水害からの復興のため、南部地域特産品の生産販売の振興を図るとともに地域の風土・歴史・文化に根差した魅力を発揮し全国に発信する目的で開催しました。やまぶきホールでは「スローライフフォーラム in 水源地のむら川上」なども開催され、両日でのべ4950人の方が訪れ賑いました。

奈良県生協連は、大学生協の学生委員のみなさんと参加しました！



朝早く、近鉄奈良駅前を出発



深層崩壊現場(迫地区)を対岸から見る。吉野土木事務所の花本さんから説明を受ける学生たち



大滝ダム全景 ダム堰堤に物産販売や模擬店のブースが並びました



エレベーターでダム真下のダイナミック広場へ



「学べる防災ステーション」  
合羽と長靴を借りて「豪雨体験」



大滝ダム見学



ダイナミック広場ではダムの説明を受ける



ダムサイトではさまざまなイベントが開催されていました



メッセージコーナー  
(激励の声を吉野地域にお住まいの方々に)



寄せられたメッセージ

大きな山崩れの現場を見て驚きました。自然を守りながらとにもがんばっていきましょう。

参加した学生は奈良教育大学生協、奈良女子大生協、奈良県立大生協、京滋奈良ブロックの学生委員33名とスタッフ4名。学生に感想を聞いたところ、深層崩壊の現場を間近で見たことが一番印象深く、崩落規模の大きさに驚いたようです。現場を見て説明を聞いたからこそ、「なんゆう祭」に参加した際に、現地の村の人たちの強さや人のつながりの深さを感じることが出来たとの感想が出されました。生協が地域にできること、これからも考えていきたいと思ひます。

# 3.11 を忘れない。。

## みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

### 数千人規模で起きた人口流出

震災後、沿岸部のまちでは2千人～3千人規模で人口が流出しました。もともと人口減少が続いていた地域ですが、今回の震災で急激な人口流出が進み、地域復興の不安材料となっています。とくに、今後地域のコミュニティ再生や産業復活を担っていく若い世代の流出は、大きなダメージです。

被災した市町では、それぞれ定住支援策を打ち出していますが、一度市町外に出て行った住民に戻ってきてもらうのは至難の業です。

南三陸町も震災後約2千人の住民が町外へ転出しました。現在、一時的に流出は収まっていますが、南三陸町企画課の大森隆市係長は「今後も就労や子どもの進学などでまちを離れる人が出てくるのではないかと懸念します。現在町外の仮設住宅で暮らす住民が「戻らない決断」をすれば人口減少はさらに加速します。

「これほどの震災ですから復興の最終形がどうなるのか正直分かりません。嵩上げた土地に建物は建つのか、人は戻るのか、心配は尽きませんが、我々としては震災ですべて無くしたことを逆に機と捉え、今できることをやっていくしかありません」と大森係長は話をしてくださいました。

千年に一度の復興は難問山積の上、人口減少というまちの活力を奪われる危機との闘いでもあるのです。

情報提供／みやぎ生協



南三陸町企画課の大森さん。「震災前は1万7千人が住んでいました。現在住民基本台帳では1万5千人ほどですが、住民票を残して町外にいる方などを考慮すると実質1万人ほどじゃないかと思えます」と人口実態について話します。



造成工事の進む志津川東地区。住居のほか、役場庁舎や志津川病院や総合ケアセンターなどが建設されます。

### 「子ども・被災者支援法の幅広い適用と具体的な施策の実施

#### 賠償の事項問題の抜本的な解決を求める 請願署名

(呼びかけ団体：原発事故被害者の救済を求める全国運動実行委員会)

奈良県生協連も会員生協とともに取り組み、3,787筆の署名が寄せられました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災から2年半が経過しましたが、震災により被害を受けた人々の暮らしは復興とは程遠い状況です。とりわけ福島第一原子力発電所の事故により、福島県では放射性物質が拡散し、子どもを外で遊ばせられない、将来にわたって健康の不安があるなど多くの問題を抱えながら暮らしている人が多くいます。また、避難を余儀なくされた人の中には、経済的な問題や生活の劇的な変化による多くの困難を抱えている人が存在します。

国の責任において、被害者の支援を早急に行うために2012年6月に成立した「原発事故子ども・被災者支援法」の趣旨に沿って、具体的な施行が実行されることを、また、現在福島を離れているすべての原発被害者に、損害賠償ができるよう時効期間を延ばす立法を求めています。

※12月4日参院本会議で、原発事故の損害請求権の時効を10年に延長する特例法が可決しました。

主催／なら消費者ねっと 共催／奈良県 消費者シンポジウム in なら 2013

～あつまれ！ママパパ、せんせい、学生さん～

**みんなで考えるインターネット社会**

インターネット・携帯電話にかくれた危険を考えてみよう！

(後援／奈良市、奈良市教育委員会)



なら消費者ねっとによる第1回のシンポジウムが、11月30日(土) 奈良弁護士会館3階大会議室で開催され48名が参加しました。

誰でも気軽に使えるようになった携帯電話やインターネット、しかしウイルス感染、詐欺行為、プライバシー侵害など情報犯罪に巻き込まれる危険が増えています。楽しく安全に利用するにはどうしたらいいのか、被害にあったときはどうしたらいいのかをこの問題に詳しい川村 哲二弁護士に「インターネット社会の消費者問題～青少年とネット、スマートホン～」についてお話いただきました。子どもたちをネットの中に潜む様々な危険



から守るために

- ・フィルタリングの設定
- ・パスワードの管理
- ・発達段階に合わせた家庭、学校でのルール作り
- ・家庭、学校、地域での見守りと対話
- ・消費者啓発、教育の強化によるネット・リテラシー
- ・未成年契約の効果に関する立法を含めた対策
- ・クレジットなど電子決済手段についての再検討などをあげられトラブルに合わない対処方法を教えていただきました。

その後、県内で啓発活動をしている市民グループ「グループあんあん」が、芸能人などになりすました「サクラ」を使って悪質サイトに会員登録させる「サクラサイト商法」と、子どもの携帯電話のオンラインゲームでの高額請求の啓発劇を演じました。また消費生活相談員さんからは最近の相談事例として、通販サイトでのトラブルやスマートホンを安全に使うためのヒントなどのお話がありました。最後になら消費者ねっと「子ども・若者チーム」が行なった「未成年者のインターネット利用に関するアンケート調査」の報告があり 未成年者のインターネット利用時間やネットゲームの種類 親子での携帯電話やインターネットの使い方の約束事などの結果が報告されました。

どんどん進化していくネット社会の中で、大人が知らない子どもだけのネット利用法を、私たちは「わからない」と片付けずに見ていく必要があると思います。県消費・生活安全課、青少年・生涯学習課、県教育委員会からもご参加頂きました。



なら消費者ねっと代表  
北條弁護士のあいさつ



グループあんあん 啓発劇



消費生活相談員  
事例報告



なら消費者ねっと  
子ども・若者チ  
ーム報告



## 低炭素の地域づくり戦略会議・奈良2013(第2回)が開催されました

2013年11月18日(月) 13:30～17:00 やまと会議室にて「低炭素の地域づくり戦略会議・奈良2013(第2回)」(主催:気候ネットワーク、サークルおてんとさん、奈良県地球温暖化防止活動推進センター)が開催され、奈良県生協連を含む54名が参加しました。行政10(県5課、奈良市2課、橿原市、生駒市、斑鳩町)、小水力利用推進協議会(吉野町、東吉野村)、生協、各地域協議会、ストップ温暖化推進員やNPO、学識者が参加されました。



日本の温室効果ガス排出量の推移を説明する田浦氏



### 昨年からの通算5回目の開催

毎回約50名が参加され、世界や国の動向、県内の最新情報などの共有を行っています。

気候ネットワークの田浦事務局長からポーランド・ワルシャワで開催中の気候変動枠組条約COP19の最新情報、国内の動向を、県エネルギー政策課の倉田氏から県エネルギービジョンの最新状況を、県奈良の木ブランド課の西氏から木質バイオマス実証実験の報告を、東吉野村小水力利用推進協議会の森田氏、NPO法人どうでの杉本氏から取り組み実践報告を、市民ファンドに対応する組織「一般社団法人地域未来エネルギー奈良」の設立計画をサークルおてんとさん清水氏から、県農村振興課の長谷川氏から助成制度の情報提供があり、情報共有したあと、意見交換を行いました。木質バイオマスに対しては熱利用の必要性や関係する横断的な産業の連携に期待する意見が出されました。少しずつですが、吉野町や東吉野村の小水力などを中心に、具体化に向け、確実に再生可能エネルギーの輪が広がってきていると感じました。

## 第24回奈良県生協大会

### 「地域共生社会をもとめて

### ～森、水、エネルギーそして人のきずな～」開催します

2014年1月18日(土) 13:00～16:00 奈良商工会議所5階ホール

奈良県生協連では、協同組合の理念を共有し地域社会に協同とたすけあいの実践を広げ、よりよい奈良の明日のために、県南部地域活性化の活動に参加することを重要テーマに掲げています。

その具体化として、生協大会を開催します。多くの方が南部地域活性化の可能性を共有し、地域社会の一員としての生協の役割や可能性を確かめ合う場とし、また県南部に広がる森林やエネルギー利用などを学び地域とともにできることを各々が考えるきっかけとしたいと思います。

吉野町は新エネルギーの街をめざしています  
美吉野太陽光発電所のメガソーラー

#### ■基調講演 「地域づくりと協同組合の可能性」

講師：公益財団法人生協総研主任研究員  
栗本昭氏

#### ■事例報告 「エコでヒューマンな自立できる村づくり」

吉野町小水力利用推進協議会事務局  
岸田かおる氏

#### ■トークコーナー

- ①吉野町 北岡篤町長：吉野町の取り組み
- ②奈良県森林組合連合会会長 山本陽一氏：森林の役割
- ③近畿労働金庫 地域共生推進部部長 法橋聡氏
- ④大学生協学生委員
- ⑤会員生協 組合員理事

#### ■会場交流



吉野町殿川地区の住民手製の水車

# おじやましました～奈良県医療福祉生協の巻～

## ＊地域まるごと健康づくり＊ 「いきいき健康まつり」

奈良県医療福祉生協ができて、約1年半。少しずつ地域にひろがっています。

2013年11月10日(日)「地域まるごと健康づくり」を願って、地域の方や多くの組合員がふれあい、学び、体験、楽しむお祭りとしてみみなし診療所と駐車場で「いきいき健康まつり」が開催されました。

雨が心配される天気でしたが、500人を超える方が訪れました。駐車場には医療福祉生協を支える団体により、模擬店などのテントがつけられ、診療所内生協ホールでも、オープニングにミニコンサート、診療所内では「健康チェック(血圧、体脂肪、骨密度)」「体力測定」などが行われ、組合員だけでなく地域の若い家族連れでにぎわいました。



### 「愛だけじゃ守れない」 「がん検診」奈良県民会議の旗

奈良県の死亡原因第一位「がん」第2回奈良県がん対策推進計画(平成25年3月策定)によると死亡原因の第1位になっています。総死亡数の30.6%(全国28.5%)です。主な部位別では「気管・気管支および肺がん」「胃がん」「乳がん」「大腸がん」の順に高くなっています。奈良県では「がん検診を受けよう」県民会議を中心に受診率アップの取り組みを進めています。奈良県医療福祉生協も県民会議に参加しています。



オープニングセレモニー(生協ホール) 県立看護学校卒業生のグループ「フォーエンジェル」とコープサークル「チェリブラ」のみなさんによるオープニングの演奏がありました。



屋外 ならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協、労済生協などの出展ブース。おでんやフランクフルト、豚汁などの模擬店、おら細工や「カタヌキ」「お菓子すくい」など子どもも参加できる工夫を凝らした出し物もありました。

### 診療所内



上 健康チェック(血圧、体脂肪)

右上 骨密度コーナー

右下 体力測定(開眼片足立ち、体前屈、握力)「いきいあそび広場研究会」のみなさんによる体力測定。幼児期からの「歩育」を勧められていました。



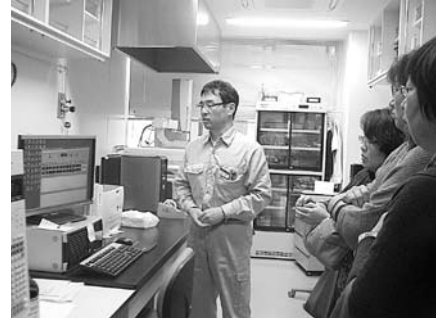
「地域の人に知ってもらいたい、地域の人とともに健康づくりをしていきたい」という思いを語るのは実行委員長の湊さん。地域をまるごと健康づくりすることは、診療所がなくても可能。医療福祉生協の存在を知っていただき、このようなイベントを定例化させていきたいそうです。ならコープのお店周辺ばかりか橿原市内にこの健康まつりのチラシや機関紙などを「地域手配り応援隊」約30名が人と人とのつながりを大切にしながら手配りやポスティングをされています。日頃からのこの口コミが効いているようです。この周辺は若い世帯が多く、インフルエンザの予防接種を通じて奈良県医療福祉生協を知っていただく機会となっているようでした。

# 広がる協同・くらしの輪

## 食の安全見学会開催（主催：奈良県生協連食の安全懇談会）

2013年10月29日（火）桜井市に昨年4月から新しく移転した奈良県保健研究センターを見学しました。奈良県が実施する食に関する検査などについて、実際の測定現場や検出器などの検査機器を見る機会を設け、理解を深めていただくことを目的とし、コープ自然派奈良、ならコープ、奈良県生協連の合計13名が参加しました。

食品担当 統括主任研究員 岡山明子さんの司会で始まり、所長の常岡さんのあいさつがありました。施設の設置目的の説明があり、その後2グループに分かれて、残留農薬検査、ウイルス・細菌検査などについて新しい検査室を見学し、検査担当者と直接、質疑応答がなされました。誠実に答えてくださった県職員さんたちの対応に、参加者は安心感を持ちました。「県民の要望に応じていくのが私たちの仕事。意見交換の場が有意義であり今後も要望を伝えてほしい。」と県の職員さんは感想を述べられていました。奈良県生協連としても意見交換し、相互理解することの重要性を実感しました。



県職員さんから検査方法の説明を受けました

## ならNPOフォーラム2013

### 「里山資本主義を奈良に～不安を希望に～」

11月16日、桜井市立図書館研修室で特定非営利法人奈良NPOセンターの主催でならNPOフォーラム2013が開催され、県内外から約100名の参加者が集まりました。

グローバル経済や中央集中の社会構造で失われてきた本来の人間らしい暮らしを取り戻す「里山資本主義」が注目されています。

講師のNHK広島取材班井上恭介氏は、その基本的考え方を説明しながら地域の自然と資源を大切に生かし食べ物からエネルギー、産業までも自給・自立する各地の事例を紹介しました。また主催者の奈良NPOセンター理事長の村上良雄氏との対談では、奈良でも里山資本主義を広げていきたいと、地域内での連携の可能性について語り



合われ、天井までふんだんに木材を使ったぬくもりのある会場の中、参加者の共感を呼びました。

## 一般社団法人 地域未来エネルギー奈良設立

奈良県内で、地域・市民が主体になって再生可能エネルギーを普及させる事業体「地域未来エネルギー奈良」が昨年12月に設立しました。2012年9月から開催している「低炭素の地域づくり戦略会議・奈良」のメンバーが中心になりました。気候ネットワークと市民エネルギー京都の支援を受け、太陽光市民共同発電のサークルおてんとさん、奈良県地球温暖化防止活動推進センター（奈良ストップ温暖化の会）、吉野町と東吉野村の各小水力利用推進協議会、木質バイオマス利用を検討している奈良NPOセンター、そして奈良中央信用金庫のみなさんで設立されました。ならコープ本部の屋根を借りた市民出資型の太陽光市民共同発電を最初の一步として、その後、若者の雇用や担い手づくりなども視野に入れ奈良県内の再生可能エネルギーの普及に取り組まれます。

# 県連日誌

## 10月

- 1日 大阪ガス懇談会(関消懇)
- 3日 県に要望書提出
- 8日 なら消費者ねっと運営委員会
- 18日 県環境審議会
- 21日 「(仮称)企業の社会貢献検討会」
- 23日 奈良県生協連上期監事監査
- 24日 厚生労働大臣表彰式(厚生労働省)
- 25日 関西地連大規模災害協議会公開講座
- 29日 集团的消費者被害回復訴訟制度の臨時国会での成立を求める院内集会
- 29日 医療福祉生協・県指導検査
- 30日 近畿地区府県連協議会(和歌山)

## 11月

- 1日 南部地域産業復興推進大会開催協議会
- 5日 大学生協部会  
関電との定期懇談会(関消懇)
- 8日 なら消費者ねっと運営委員会
- 10日 医療福祉生協「健康まつり」
- 12日 「食と暮らしの講演会～日本人の食生活を考える～」県消費生活センター
- 14日 第2回生協行政協議会  
第4回奈良県生協連理事会
- 16日 「里山資本主義を奈良に」  
(ならNPOフォーラム2013)
- 18日 低炭素の地域づくり戦略会議・奈良  
奈良県労済生協 県指導検査
- 20日 消費者被害対応研修会  
(なら消費者ねっと)
- 23～ なんゆう祭
- 24日
- 29日 有識者と公正取引委員会との懇談会
- 30日 消費者シンポジウム

## 12月

- 1日 川上村栗山忠明村長来訪
- 5日 関西地連運営委員会  
県連活動推進会議
- 6日 大阪消団連 化学工業部会との懇談
- 14日 医療福祉生協地域訪問
- 16日 なら消費ねっと運営委員会
- 17日 県環境審議会
- 20日 近畿地区生協府県連と  
近畿ろうきん交流会
- 20日 関西電力上期決算説明会(関消懇)



# お知らせ

## 奈良県生協連第4回理事会報告

11月14日 ならまちセンター

### 【主な審議事項】

1. 「第24回奈良県生協大会開催に関する件(第3次)」
2. その他事項の件①「『南部地域産業復興推進大会(なんゆう祭)』および『十津川村道普請』への参加について」②「『経済から原発を考える講演会』(主催:いのちから原発を考える奈良県連絡会)の後援名義」③「シンポジウム『電気の未来、エネルギーの未来』(主催:特定非営利活動法人サークルおてんとさん)の後援名義」について

## 編集後記

一日二回声を出して日本国憲法前文を読むようになりました。このところ重苦しい動きが様々あるなかで、前文に書かれていることが自分の心に誇りと勇気を持たせてくれます。  
(由)

昨年はよく夫と旅をしました。息子2人が独立し夫婦2人の生活になり、共通の趣味の山野草を求めての写真撮影の旅です。今年は何を見に行きましょう。  
(順)

最近、山の辺の道を何回かに分けてウォーキングに連れて行ってもらうっています。桜井駅から歩いて次はいよいよ奈良に到着です。歩いてみると古びたお寺や古墳など車に乗ってでは見ることのない発見がたくさんあります。奈良県内の古道を制覇したいな。  
(佳)

年末に、奈良県内で再生可能エネルギーの普及をすすめる一般社団法人「地域未来エネルギー奈良」が設立されました。おめでとうござります。  
(和)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043

URL <http://www.narakenren.coop/>